



## サトイモ 土寄せと

### 灌水で芋を大きく

生育適温は25〜30度と高く、一方で低温に弱いので、霜で葉がすぐに傷んでしまいます。畑の乾燥に極めて弱く、一度しおれると回復が遅く、また芋の肥大中に乾燥すると、芋にひび割れが生じます。畑は耕土が深く、適度に水持ちし、かつ水はけが大切です。

**【品種】**種芋から出た葉は、数枚重なつて太い葉の束(葉柄・すいぎ)を成し、この元が膨らんで親芋となります。親芋用の品種である「赤芽」「八ツ頭」「セシベス」は主にこの親芋を食べます。親芋の脇に側芽が発達して、肥大して子芋が付きます(図1)。子芋用品種には「石川早生」

「土垂(どたれ)」などがあります。「八ツ頭」の葉柄はえぐみが少ないので、食用になります。

図1 サトイモの付き方

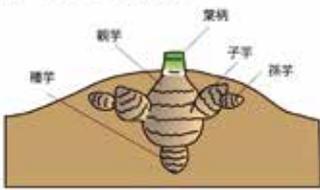


図2 畑の準備

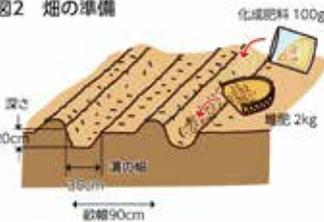


図3 植え付け

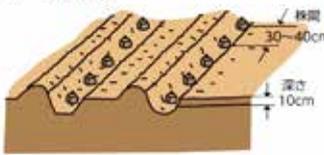
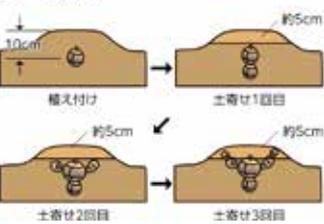


図4 土寄せ



栽培カレンダー(サトイモ)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中間地		●	●	●	●	●	●	●	●	●
●		●	●	●	●	●	●	●	●	●
■										

● 植え付け ● 生育 ■ 収穫

**【畑の準備】**連作を嫌うため、同じ畑で3、4年は作らないようにします。1平方m当たり苦土石灰100gを早めに全面に散布し、畝幅90cm程度とし、深さ20cmの溝を掘ります。元肥は、溝1m当たり化成肥料(NPK各成分12%)100g、堆肥2kgを施します(図2)。肥料をまいた後、5cm程度に土をかけておきます。

**【植え付け】**中間地では地温が上がってくる4月中旬ごろから植え付けができます。地上に芽を出すまでに1カ月かかるので、暖かい場所でコンテナに仮植えし、芽出してから菜園に植え込むと良いでしょう。種芋は芽を上に向け、株間30〜40cmとし、土を10cm程度かけます(図3)。

**【追肥 土寄せ】**土寄せは芋の肥大に関係し、一度に多くの土寄せをすると子芋の数が少なく、かぎ形の芋になりやすくなります。土寄せが少ないと子芋の肥大が悪くなり、子芋が地上に顔を出し、芋が緑化してしまいます。1回目は5、6葉のときに、株の周りに

1株当たり化成肥料10gくらいを追肥し、高さ5cm程度土寄せします。2回目は半月後、さらに3回目はその半月後に同様に追肥し、高さ5cm程度土寄せします(図4)。

**【灌水(かんすい)】**野菜の中で最も乾燥に弱いので、真夏の干ばつには毎日たっぷり与えます。時には畝間の両端をせき止めて、水がたまるように灌水できると良いでしょう。また、敷きわらなどで土の乾燥を防ぎましょう。

**【収穫】**「石川早生」のような早生品種では、早掘りしてお盆のときのお供え物や「衣(きぬ)かつぎ」として小さい芋を楽しむことができます。「土垂」や「八ツ頭」などの中晩生品種は10月ごろから収穫できますが、霜の降るまで芋は肥大します。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

# 木の芽の出荷者大募集

木の芽の出荷量が減少していることから、2023年から出荷を受付けました。

出荷いただける方は、ご連絡をいただきますよう

よろしくお願いいたします。出荷規格等を案内させていただきます。ご連絡をお待ちしております。



お問い合わせ先／特産振興課 ☎63-2108 (平日8:30~17:00)